

オシムの「日本化」の意味の研究～日本サッカーの文化的考察～

A study of meaning Osim's "Change to Japan"～A analysis of Japan soccer culture

1K05B135

竹本 和貴

指導教員

主査 宮内孝知先生

副査 石井昌幸先生

1. 研究の動機

本論文を書く動機となったのは、ここ最近の日本サッカーの不振を見て、今後の日本サッカーが海外のチームと肩を並べていくにはこのままで本当にいいのかと疑問に思ったからである。ただ、日本サッカーの不振を日本人選手の身体能力の低さ、技術の無さで片付けるのは早計である。そこで本論文では不振の要因として日本文化に注目した。

2. 研究方法

本研究を進めるにあたって、サッカーや日本文化に関する参考文献や先行研究を収集した。その際、データを取り扱った文献より、理念や概念を取り扱った文献を選び、より社会的切り口から考察できるようにした。

3. 考察

前日本代表サッカー監督のイビチャ・オシム氏は2006年7月21日、日本代表監督就任会見の場で、「私は日本のサッカーを日本化するつもりだ」と宣言した。この発言に違和感を覚えた人も少なくないだろう。ただ、日本のサッカーなのだからすでに「日本化」されているのではないかと思ってしまった時点で、日本サッカーの「日本化」は必要なのかもしれない。日本サッカーは変革のときを迎えているのである。

日本のサッカーはいま南米スタイルや欧州スタイルなどとサッカーの国際化を目指している。だが、日本サッカーにおける国際化は海外サッカーの模倣にも似たものであった。日本国が国際化

に成功したのは独自の日本文化を把握しながら、バランスよく欧米の文化を取り入れたからである。日本サッカーが世界に通用しない要因には日本人選手の身体能力の低さ、技術不足があげられる。ただ、それだけが原因ではない。本論文では日本サッカーが世界に通用しない他の原因として日本独自の文化、伝統に注目した。よくサッカーがその国の文化になっている国は強いといわれる。だから、日本の文化、伝統を見直し、把握することは今の日本サッカーに必要なことである。そうすることでオシム氏が述べた「日本化」という言葉の意味を紐解けるだろう。さらには日本サッカーの今後のあり方を示せるはずである。

まず、そのために日本のサッカーと世界のサッカーを比較して、その違いが日本文化によるものである事象をあげた。戦術の変化のなさ、判断力不足、マリーシアの少なさ、個性のなさである。この4つの事柄が浮き彫りになる。それではこの4つの事象にどのような日本の文化、伝統が関係しているのだろうか。

それは縦社会、武士道の「恥」の精神、集団文化といった文化、伝統である。例えば、判断力不足や個性のなさは集団文化が要因である。集団文化とは対立よりも話し合い、和合することをよしとする日本人の特性をいかした、日本人が昔から培ってきた文化である。集団文化の中で生活するわれわれ日本人はそのため他人と異なる行動をすることを極度に嫌う。そのため、個性が育ちにくい環境であるといっても過言ではない。サッカーにおいて個性がないことは大きな問題である。また、判断力不足の面でも同じことがいえる。集団

文化によって判断力が鈍ることがある。これは周りの考え、思想に流され個人で判断することが難しくなるからである。集団文化はさまざまな障害を日本人に与えるのである。このように日本文化は日本サッカーに悪影響を及ぼす場合がある。ただ、これらの文化は一概に悪いとは言えない。しかしながら、これらの文化と上手く付き合っていかなければ日本サッカーの未来がないのも事実である。そのためにも日本の教育を検討していくことが必要である。このような文化は幼い頃から徐々に身につけていくものである。そして、幼い頃にこのような文化を身につける機関は学校である。だからこそ、教育の変革がいま必要なのである。

4. まとめ

日本人文化に注目していくとオシム氏が言った日本サッカーの「日本化」の意味が明らかになる。日本サッカーは自国の伝統や文化とすり合わせる作業をしないまま国際化を目指してしまった。日本が目指した海外の強豪国のどれかがサッカーその国の文化そのものになっている。自分の国の文化を客観的に見つめ直すことが重要である。日本サッカーは「メイド・イン・ジャパン」の確固たるスタイルを築き上げるべきなのである。オシム氏はこのようなことを「日本化」という言葉で示したかったのかもしれない。